

教育実習の心構えと注意事項

(1) 教育実習は責任感と熱意を持って取り組む

- 教育実習期間中は生徒にとって「あなた」は「先生」であることを意識する。
- 生徒は先生の熱意を敏感に感じている。

(2) 社会人としての基本を守る（就職最終試験に臨む気構えで行動する）

1) 遅刻，欠勤，居眠りをしない

- 遅刻しないよう，時間に余裕を持って行動する（始業20～30分前に出勤する）。
 - ・交通渋滞は遅刻の理由にならない。
 - ・どうしても遅れる場合は，必ず連絡をする（電話番号を控えておく）。
- 基本的に欠勤は許されない。
 - ・自身の健康管理について留意する。
 - ・就職活動等を理由とした欠勤は絶対にしない。
- 決して居眠りしてはいけない（昼食後は特に要注意）。
 - ・朝が早く，普段の生活とだいぶ異なるので，事前に生活リズムを変えておく。
 - ・夜更かしをしない。

2) 服装，容姿，言葉遣いに注意する。

- 清潔感がある服装を心がける。活動に不便で，派手なものやラフなものは避ける。
 - ・男子：背広，ネクタイが基本。Yシャツは白色が基本。
 - ・女子：スーツなどフォーマルな服装。余り派手なものは×。
- どのような人から見ても問題がないと思われる容姿などを心がける。
 - ・教育職は社会人としての規範に合っていることを厳しく求められる。
 - ・茶髪，派手なピアス，目立つ指輪などは避ける。
 - ・寝癖は厳禁。事前に調髪しておくのが望ましい。長い髪はまとめておく。
 - ・口臭などにも気を遣う。
- 実習校の先生や生徒に対し，相応しい言葉遣いを心がける。
 - ・「タメ口」は論外。敬語，「おاهشす」は基本。（「おはようございます」「ありがとうございます」「失礼します」「すみません」）

(3) 実習校の教職員に対して

- 直接関係のない先生や職員の人たちにも挨拶ははっきり，きちんと，こまめにする。
- わからないことは実習校の教務主任などの先生に相談する。場合によっては大学学務グループ又は，大学の教育実習担当教員に連絡する。
- 帰宅の際は，必ず担当教師および教務主任に連絡し，了承を得たうえで帰ること。
- 実習終了後の指導教師への履修簿（ペン書）の提出は期限を厳守すること。記載については指導教師の指示に従い，丁寧に記述すること。特に誤字脱字がないように心がける。
- 何事にも「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」は基本。
- 実習校での指導体制について，実習校の教務主任とクラス担任に確認をしておく。

(4) 実習校の生徒に対して

- 教師の立場を見失わないようにしっかりした態度で生徒に接する。
- 積極的に担当クラスの生徒の中に入り，生徒一人一人の理解に努める。
 - ・3日以内に担当クラス全員の名前と顔を覚えるつもりで出来る限り努力する。
 - ・担当クラスの生徒には意識して大きな声で挨拶する。

- ・休憩時間、昼食（昼休み）、放課後などを利用してみる。
- 生徒からの個人的な相談は、担任や教育実習担当の先生と打ち合わせた上で対処する。
 - ・学校外での生徒との接触はしてはならない。
 - ・セクハラに加害者・被害者にならないよう注意する。
- 特定の生徒を熱心に指導したり、逆に無視するようなことは厳に慎む。
 - ・意識せずとも、そう思われるような行動をしないように心がける。
- 少しでも不確かな知識や漢字・用語があった場合、必ず調べてから授業に臨むこと。
 - ・「まあ、いいか」という気持ちの時は必ずミスをするので、十分に注意する。
 - ・わからないことは、わからないとはっきり答え、調べた上で回答する。
 - ・実習生に慣れている高校では、実習生をからかおうとする生徒がいるので要注意。
 - ・余裕がないと、サラッとかわせない。

(5) 実習校（のルール、システム）に慣れる

- 登校したら出勤簿に押印する。
- タバコは決められた場所以外では吸わない。全校禁煙ならば、絶対に吸わない。
 - ・吸ったら後始末も忘れない。吸うのは休憩時間のみ。
 - ・校内での飲酒は厳しく禁じられている。
- 掃除は生徒と一緒に、進んで手伝うこと。
- 特に指示がない限りHR、朝礼、掃除、クラブ活動などには積極的に参加する。
 - ・傍観者ではいけない。
- 生徒を早く覚えるのに役立つのでクラブ活動にも進んで参加する。
 - ・上履、運動靴、トレーニングシャツを用意すること。
 - ・休日に参加することを求められても嫌な顔をせず、むしろ、積極的に参加するように心がける。
- 通勤は原則として公共交通機関を利用する。自動車・バイク等の通勤は大学では許可していない。

(6) 注意すべき一般的な事項

- 安全に留意する。
- 4 S（整理・整頓・清潔・清掃）を心がける。
- メモをとるくせをつける。
- 板書の仕方に注意する（まっすぐ、おおきく書く、癖字のチェック）。
- 同僚や学生の前で、学校や教師、実習生への軽はずみな批判は慎む。
- 他大学の学生とすべての点で比較されるので、すべてのことに十分に注意すること。

(7) その他

- 実習終了後は、挨拶状（礼状・ハガキ）を出すこと。
- 貴重品は、必ず持ち歩くこと。
- 給食は、実費負担。
- 教科書については、学校の指示を受けること。
- やむを得ず実習を取りやめる場合には、速やかに学務グループに連絡をすること。
- 実習関係書類（履修簿、出勤簿など）の配布に関しては掲示を注意して見ること。（書類を事前に受理しておく必要のある学生は、その旨を学務グループに申し出ること。）
- 全国的に実習受け入れを敬遠する傾向が強く、不心得の者がいた場合は、次年度から断わられることもあるので、後輩のことも配慮して臨む。